

第3次入間市立図書館基本計画（令和4年度～令和8年度）

○基本理念

「くらしに役立ち 学びを支える 身近な図書館」

○基本方針

本計画では、入間市立図書館の現状と課題を踏まえながら、基本理念に基づき、次の4つを基本方針として、図書館の目指すべき姿の実現に取り組んでいく。

①計画的な資料の収集と蔵書管理

- 1) 図書館資料の収集・整理・保存・提供
- 2) 行政資料・郷土資料の収集
- 3) 参考図書収集
- 4) 新聞、雑誌の収集
- 5) 視聴覚資料の収集

【主な成果】

- ・「入間市立図書館資料収集基準」に基づき、図書館資料の計画的な収集に努めている。
- ・令和6年度にクラウドファンディング型ふるさと納税事業に取り組んだことにより、予算確保に努め、児童書をさらに充実させることができた。

募集期間：令和6年5月31日から7月15日 目標金額：100万円

達成金額：134万4千円 購入予定冊数：約7,200冊

- ・入間市立図書館雑誌スポンサー制度を活用することにより、寄贈雑誌の充実を図ることができた。令和4年度から、2業者がスポンサーとして追加となった。

令和6年度 6事業者から33誌寄贈

- ・「入間市立図書館資料除籍基準」に基づき、定期的に適切な除籍を行うことにより、限られた書架を魅力あるものとして維持することに努めている。

除籍点数 令和4年度 12,715点 令和5年度 18,681点

- ・各館にリサイクルコーナーを設置し、除籍図書の有効活用を図った。
- ・コロナ禍で中止していた、市の公共施設へのリサイクル本配布事業を再開し、除籍図書の

有効活用を図った。

配布冊数 令和4年度中止 令和5年度 213冊 令和6年度11月13日実施予定

【課題】

- ・除籍しきれなかった分野もあるため、今後とも、収集・除籍により、魅力ある蔵書構成を目指す。
- ・郷土資料コーナーに入間市ゆかりの人物コーナーを作るなど、さらなる充実を図る。
- ・雑誌自体の廃刊・休刊が多いので、それを補填する雑誌の収集に努める。

②学びの拠点となる図書館サービスの提供と充実

- 1) レファレンスサービス体制の充実
- 2) 貸出・返却の新しいサービスや資料の提供
- 3) 電子図書館サービスの提供
- 4) テーマ本の展示や利用促進事業の実施
- 5) 情報発信、広報活動の充実

【主な成果】

- ・レファレンスサービスについて、所蔵資料のみならず県立図書館や国立国会図書館等の類縁機関の資料やレファレンスサービスを利用することで、利用者の求めに応じて適切に対応している。
- ・資料検索データベース（読売新聞データベース、法情報総合データベース、官報情報検索サービス）を活用することにより、レファレンスサービスの充実を図っている。
- ・令和5年度から、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスを開始した。
- ・職員は、県主催の研修会へ参加することにより、レファレンス能力の向上に努めている。
- ・令和5年1月の新システム導入により、Felica（フェリカ）やマイナンバーカードでの貸出が可能となり、また、入間市立図書館公式LINEアカウントの開設により、利用者のニーズに合わせたサービスを展開することができた。
- ・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した電子図書拡

充事業により電子図書を拡充することができた。

購入冊数 1,278 冊 購入金額 4,391,648 円

【課題】

- ・ 国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスのさらなる活用のため、周知方法等を検討する。
- ・ 電子図書館については、有効期限切れで読めなくなる資料も多いため、必要な資料を見極め、そのうえで、利用が増加するように努める。
- ・ SDGSに関する資料の刷新を図る。
- ・ 図書館公式ホームページでの頻繁な情報提供に努める。
- ・ 紙で発行している図書館だよりの発行部数見直しと新たな媒体での発行を検討する。

③誰もが利用しやすいサービスの提供と充実

- 1) 子どもの読書活動の推進
- 2) 障害のある方にも利用しやすいサービスの提供
- 3) 高齢者にも利用しやすいサービスの提供
- 4) 多文化サービスの充実

【主な成果】

1) 子どもの読書活動の推進

- ・ 乳幼児からティーンズまで年齢相応な資料を収集し提供することができた。
- ・ 乳幼児が本に親しむ機会を充実させるため、赤ちゃん絵本コーナーの充実を図った。
- ・ 読み聞かせボランティアと連携したおはなし会や「ブックスタート」関連事業を開催し、本の読み手と聞き手が同時に読書を楽しむ共有体験をしたり、子どもが本とのつきあい方を学んだりするなどの読書活動の推進を図るとともに、親子のコミュニケーション、子育て支援の場を提供している。コロナ禍で中止していた「赤ちゃん向けおはなし会」を令和5年11月から再開した。

おはなし会実施回数 令和4年度 220回 令和5年度 284回

参加人数 令和4年度 1,764人 令和5年度 2,451人

- ・小中学校に団体貸出や配本サービスを行うことで、学校図書館の支援を行っている。
- ・保育所や学童保育室、放課後子ども教室等に団体貸出や配本サービスを行うことで、他の施設等と連携した読書活動の推進を図っている。

配本サービス 令和4年度 40団体 延べ25,000冊

令和5年度 35団体 延べ24,000冊

- ・小学2年生を対象とした「図書館利用教室」、小学3年生を対象とした「図書館施設見学」を実施することで、図書館をより知ってもらう機会をつくることのできた。

利用教室 参加校数 令和4年度 16校 令和5年度 16校 令和6年度 15校

図書館見学 参加校数 令和4年度 16校 令和5年度 15校 令和6年度 15校

- ・図書館が薦める児童書を紹介したブックリスト「あれこれブックガイド」を発行し、市内小中学校の全児童、全生徒に配布することにより、読書活動の推進を図った。
- ・「入間市公式広報ツール」すぐーるやLINEを活用し、「あれこれブックガイド」や図書館の情報を児童・生徒に配信した。

配信数 令和5年度 小学生6,564件 中学生3,491件

令和6年度 小学生6,456件 中学生3,313件

- ・中学生社会体験チャレンジ事業やひばり教室（適応指導教室）の社会体験の受け入れ事業等を行い、社会体験を支援することで、より図書館を身近に感じてもらうことができた。

2) 障害のある方にも利用しやすいサービスの提供

3) 高齢者にも利用しやすいサービスの提供

- ・大活字本の購入や、読むことが苦手な方でも読みやすくわかりやすい「LLブックコーナー」を設置し、高齢者や障害のある方を対象とした図書の充実に努めている。

大活字本 購入数 令和4年度 102冊 令和5年度 98冊

- ・視覚障害者に対して、デイジー図書の作製や貸出を行った。

デイジー図書作製点数 令和4年度 5点 令和5年度 4点

- ・高齢者や視覚障害者に対して、リーディングトラッカーの提供を開始した。

※リーディングトラッカー…文章を読み進めるのが苦手な方、ディスレクシアや視覚障害（視野狭窄や黄斑変性など）のある方をサポートする道具。

- ・りんごの棚の設置について検討を開始した。

※りんごの棚…スウェーデン生まれの「特別なニーズのある子どもたちのための資料を展示した棚」。すべての子どもに読書の楽しさを知ってもらうことが目的で、世界各地に広がっている。言語障害のある子どものためにつくられた、りんごのおもちゃから名前が付けられた。

4) 多文化サービスの充実

- ・やさしい本から日本語を身につけていく日本語多読図書や外国語資料の充実を図った。

【課題】

- ・赤ちゃんタイムの充実を図る。
- ・図書館利用教室、図書館見学へ全校が参加できるよう、時期や来館方法について検討する。
- ・小中学生のタブレットの活用（図書館情報の配信など）について検討する。
- ・「調べる学習コンクール」へのさらなる参加を目指す。
- ・ティーンズコーナーとイベントの充実を図る。
- ・りんごの棚を設置する。

④図書館の環境整備と効率的な運営

- 1) 本館と分館の運営体制の強化
- 2) 図書館システムの構築
- 3) 本館及び分館の施設の修繕や整備
- 4) 居場所としての図書館環境の充実
- 5) ボランティア活動の推進
- 6) 他自治体や機関との連携
- 7) 安心して利用できる環境の整備

【主な成果】

- ・分館の運営については、指定管理者により、様々な自主事業等を実施することで、民間のノウハウを生かした効率的な運営を図っている。
- ・年2回「モニタリング」を実施し、分館の管理運営について確認している。また、貸出、

返却、レファレンス等図書館の基本的サービスについて、本館と分館とで格差・齟齬が生じないように、館運営会議、選書会議、児童担当者会議等の各種調整会議を実施し、情報共有を図るとともに、運営方針の徹底を図っている。

- ・令和5年度は、現指定管理者による運営が3年目となることから、客観的に管理運営を評価し、事業目的の達成度を判断するために第三者評価を実施した。
- ・西武分館の空調設備については、全ての系統において改修工事が完了した。金子分館についても、空調設備を改修することができた。
- ・移動図書館「やまぼと号」の利用状況等を踏まえ、定期的な見直しを行っている。
- ・移動図書館「やまぼと号」で、巡回していない小・中学校に特別訪問したり、青少年活動センターのフェスティバルに参加したことにより、サービスの拡充を図った。
- ・移動図書館「やまぼと号」については、さらなるサービスの充実について検討している。
- ・新システムの稼働により、図書発注業務が簡素化され、より迅速に新刊図書を利用者に提供できるようになった。また、自由帳票機能により、多彩な統計を抽出できるようになり、さまざまな業務の分析に役立てている。
- ・居場所としての図書館環境の充実を図るため、館内の特定の場所で水分補給ができるようにした。
- ・宮寺配本所の充実を図るため、定期的におはなし会を行っている。
- ・コロナ禍で中止または縮小していた「冬のおたのしみ会」を再開し、ボランティア活動の場を提供した。

「冬のおたのしみ会」参加者数 令和4年度 116人 令和5年度 220人

- ・ボランティアグループを対象に読み聞かせ研修会を開催し、さらなる活動の推進を図った。
- ・入間地区公共図書館協議会や西部地域まちづくり協議会（ダイアプラン5市）で連携会議を行い、共通の課題について協議した。

【課題】

- ・宮寺配本所でのイベントを増やすなど、サービスの充実を図る。
- ・読み聞かせ養成講座を開催し、新たなボランティアを育成する。